

令和元年度

事業所名： 老人グループホーム 柿の木ホーム

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0370200297		
法人名	社団医療法人新和会		
事業所名	老人グループホーム 柿の木ホーム		
所在地	〒027-0063 岩手県宮古市山口3-30		
自己評価作成日	令和1年6月24日	評価結果市町村受理日	令和1年11月5日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

開所から18年となる柿の木ホームは、宮古山口病院に隣接されている。この事は利用者、ご家族、私たち職員が医療連携のもと安心して生活できる環境と繋がっている。また、職員は「今日もできた、明日もできる」を理念に利用者の今日できたことが、継続して行うことができるよう役割をもって生活することの喜びを利用者が感じられるように日々関わっている。
地域密着サービスの位置づけであることから、オープンカフェを開催。柿の木ホームを知って頂き、認知症についての講演会を開き地域の方々に認知症に対する啓蒙活動を行い認知症に対する理解を深める取り組みを行っている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kajikensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action=kouhyou_detail_022_kanitrue&JiyosyoCd=0370200297-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

市の中心(駅・市役所)から山口川、三陸鉄道に沿って北へ2km程の所に位置する開設18年目の事業所である。同一施設内に病院・通所リハビリ・老人保健施設があり、医療・介護の密な連携が図られている。開所時からの理念「きょうも出来た、あしたも出来る」を受け、年度目標を「ワクワク、ドキドキの毎日！」に定め、朝会や会議を通じて共有し合い、日々のケアに生かしている。多くのボランティアが定期的に来所し利用者と触れ合った活動をし、事業所でも地域住民も対象とした認知症カフェを毎月複数回開催している。非常時には、隣設の病院を避難場所とし、近隣住民4名で協力員が組織され、情報は市が配備した防災ラジオを通じて得るなど、災害対応等に万全を期した事業所である。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和1年7月19日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

【評価機関:特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会】

令和元年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名：老人グループホーム 柿の木ホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員間で「今日もできた 明日もできる」を理念に、日々利用者の出来る事を引き出すよう関わる事に努めている。	運営理念は「きょうも出来た、あしたも出来る」で、今年度の達成目標を「ワクワク、ドキドキの毎日を！」と定め、毎月のカンファレンス等で確認し合っている。利用者一人一人にも目標を掲げ、出来る事を引き出すケアに努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的な地域との交流は行なってはいないが、ボランティアの方に来て頂いたり、他事業所の行事のお誘いに出掛けている。	町内会の回覧板や運営推進委員から地域の情報を得ており、事業所情報は町内掲示板で「認知症カフェ」等のお知らせをしている。多くのボランティアが年間を通し計画的に来所しており、それに合わせて認知症カフェを開催し地域交流を図っている。	多くのボランティア団体が定期的に来所しており、認知症カフェも毎月複数回開催している。今後も継続し、更に多くの地域住民が参加して交流の場となることを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	年1回のオープンカフェでは併設である宮古山口病院院長より認知症についての講演会を開催したり、認知症サポーター養成講座を開催している。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月毎運営推進会議を開催し活動状況や利用者の状況等報告させて頂いた上で、委員の方よりご意見ご指導を受け、サービスに活かせるように取り組んでいる。	委員は、自治会長、行政、特養施設長、家族代表、利用者と多様なメンバーで構成されている。年度初めの会には全利用者が参加し、自分の年度目標を紹介している。避難訓練を議題とした際には、居室のコンセントからの出火を心配する意見が出され、直ちに清掃の徹底等を図った。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議では市職員の方に出席して頂いた際に情報提供している。また、福祉課の支援を受けている利用者もありサービスの協力関係はできている。	運営推進委員の市の担当者から各種情報提供や助言を得ている。生活保護受給者もおりケースワーカーが時折来所する。市との連携は電話を介してのことが多いが、沿岸北ブロックの事業所連携では研修に加え、行政との情報交換が行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	2ヵ月毎に身体拘束廃止委員会会議を市職員等に出席していただき開催している。その際のご意見、指導等を受け、またホーム内で研修会を行ない身体拘束のないケアを提供している。	身体拘束廃止委員会を運営推進会議後に開催し確認している。身体拘束に関する外部研修会に参加した職員による伝達研修や、ラーニングを導入した個人研修を取り入れ、職員の共通認識を図っている。	委員会や研修会は定期的で開催されており、身体拘束はないとされている。今後は、言葉による行動抑制を含めた事業所内での気になる具体的な事例を取り上げて検討するなど、より実践的研修に取り組まれることを期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員は利用者の心身共に健康で明るい生活が送れるように努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する研修会を行っているが、制度を必要とする事がなかった。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、解約、改定の際はその内容を本人家族が理解、納得してからの締結となっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	サービス計画書作成のおり、意見、意向等を伺い利用者・家族の想いを反映できるよう取り組んでいる。	家族の面会来所時に職員から利用者のホームでの様子を具体的に伝えながら、家族の意見や要望を聴き取るように努めている。「小遣い帳は月毎にして欲しい」など、気が付かない点についての声もあり、改善に繋げている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日施設長が利用者の状態を確認、把握すると共に職員の要望にも耳を傾け働きやすい環境に気を配っている。	日々の申し送り時や、毎月の諸会議時に職員からの意見・提案を把握している。働きやすい職場環境の改善とし、夜間の事務机に電気スタンド、冬場の足元への電気ストーブを用意した。職員の資格取得希望には、事業所とし配慮し支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の資質向上のため、研修に参加できるよう配慮して頂いている。また看護休暇等内容も充実し働きやすい環境となっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	多くの研修参加の機会を頂いている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	日本認知症高齢者グループホーム協会やいわて地域密着型サービス協会に加入。沿岸北ブロックの一員として定例会に参加している。またオープンカフェでは他グループホームの方々に来ていただき顔なじみの関係づくりをしている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者本人にとって安心した生活を送る事ができるよう情報収集しお互いが慣れる環境、関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族より意向、要望を伺い、家族が安心してサービスを利用できるよう心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期の段階では暫定的サービス計画をたて、利用者、家族、職員が環境の変化に慣れるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者本人の「出来る事」に視点を置き、お互いに助け助けられる関係を保っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	重要事項説明書に「共に介護する姿勢を」と挙げられている。家族と過ごす時間をもてる計画を年間行事計画に取り入れている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	職員は利用者との日々の関わりの中で得た情報をもとにドライブに出掛けるなどの支援に努めている。	日々の記録や朝の申し送りなどで、把握した馴染みの情報を職員間で共有している。馴染みの美容院を3名の方が家族が同行し利用している。外出・外泊・実家帰省など、家族の協力も得て馴染みの人や場所との関係が途切れないように努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士相手を思いやる場面もあるなど顔なじみの関係を築いている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去者の殆どが体調を崩し併設病院に入院している。その方にお会いした時には声を掛ける気持ちを職員が皆持っている。		

Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	基本は利用者本位。状況をみながら声かけ希望を確認し、対応している。	利用者は意思表示ができ、意向や希望は日誌や介護記録で職員間で共有を図っている。起床・休憩・就床などの時間把握に不安を感じる方には、時間帯を紙に記述し可視化する対応をしている。利用者の能力や希望を生かし、調理・清掃・片付けなどの活動をお願いしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時には家族より生活歴等情報を提供して頂き、今までの生活環境の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝のミーティングなど職員間の情報交換することで、利用者の現状把握に努めている。		

自己	外部	項目	外部評価		
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容	
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回のケースカンファレンスや毎日のミーティングの中で生活上の課題や継続ケア等話し合っている。 また、利用者や家族の意向を伺いながらサービス計画書を作成している。	利用者・家族の意向も取り入れながらアセスメントにより介護計画の原案作成を経て、その確認や見直し、修正は、居室担当がモニタリングを行い、家族の声も反映しながらカンファレンスで検討し、計画案を作成している。全家族と面談して説明し、話し合っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日個別に介護記録を記載。申し送り等でケアの気づきや工夫の情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	原則、受診は家族の付き添いとしている。時として緊急を含め受診の付き添い等家族の都合・事情を考慮し支援している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	多くのボランティアの皆さんに支援していただき、利用者の楽しみとなっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者全員が併設病院医師が主治医で適切な医療を受けている。また状況に応じ往診して頂いている。	隣接の同法人病院の医師がかかりつけ医となっており、家族同行での受診を原則にしているが、事業所職員が同行した場合には、結果を家族へ報告している。毎月歯科衛生士が来所しブラッシング指導を行っている。併設病院の往診が容易など、医療連携体制が整っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設長が看護師のため利用者の心身の状態の把握ができている他、スムーズに受診、看護を受けることができている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	併設への入院が殆どで、いつでも面会し状態確認ができ、互いに情報交換している。入退院に関しては主治医・家族の意向を受けるものである。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	認知症の重症化や寝たきりの方の介護は今まで同様、家族と主治医との話し合いを持ちながら家族の意向に支援したい。	重度化や終末期には隣接の同一法人病院と連携して対応している。職員に医療的ケア研修を受講させ、有資格者を配置している。終末期を迎えた場合には、家族と話し合いを重ね、隣接の病院に入院される利用者が殆どである。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDの設置をしている他、使用方法の研修をしている。 また、急変時の対応等、連絡体制が整えられている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	月一回の割合で防災、避難訓練を行っている。 また、定期的に消防署署員立ち合いの指導を受けている。	市のハザードマップで土砂崩れ危険地域となっており、毎月防災・避難訓練を行っている。避難所は併設の病院内デイケア室で、日頃から利用しており利用者も安心感がある。自治会長等地域の協力者4名とはホットラインで繋がり、法人内連携と併せ非常時に備えている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者個々を理解し、それぞれに合った声掛けや対応に気をつけている。	集団生活の中で「トラブルはあって当然」と受け止め、我がままを出してもその人らしい姿を大切に、互いを尊重し合う雰囲気作りに配慮している。トイレ誘導は「ご飯前に一緒に行かない？」などと、さりげない声かけを行い、誇りやプライバシーを尊重するケアに努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常的に声をかけ確認をとり支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	声をかけ気づきを与えながら個々の意思決定に重きを置き支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の好みを尊重しながら、本人が納得できるよう、できないところを支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	家事は利用者それぞれの「出来ること」をその利用者の出番として参加して頂くよう職員は関わっている。	献立は日勤者が前日の食事を考慮し、ご飯、麺、パン等のバランスの中で立て、利用者の声やチラシの特売品を見て、利用者と一緒に食材の購入に出掛けている。下拵え、調理、片付けなど、個々の希望に添ったお手伝いをしている。誕生日には居室担当が希望メニューの献立を立てている。家族と共に食事会を年3、4回実施している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	茶碗、汁椀、箸は個人の物を使用し、利用者それぞれの状態にあった食事形態や量を把握し支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者と職員は月一回併設病院歯科、歯科衛生士の指導を受けている。また、利用者全員の毎食後の歯磨き等の口腔ケアを支援している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者の行動を見極め、排泄ケアの必要性に応じ支援している。	リハビリパンツ4名、布パンツ4名、尿取りパッド1名で、排泄チェック表に基づく見守り、声かけ、誘導を行い、全員がトイレで排泄している。夜間は吸収量の多いパッドを用いており、ポータブルトイレ使用者はいない。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	職員は水分摂取量をチェックし、脱水防止も含め適量を摂るように提供の仕方等工夫をしながら努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は本人の意思を確認し日曜日から金曜日の午後に行っている。	1、2日間隔の入浴とし、「今日は入浴ですから」と事前に声掛けをしている。季節の菖蒲湯、柚子湯、窓を開け外の景色を眺めながらの入浴としている。シャンプーやソープは個人毎である。入浴時は、食事や家族の話や歌を口ずさみ楽しい一時となっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者それぞれが自由な時間を起床時間としている。 日中はホールのソファで寛ぎ休まれる方もいる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医や薬剤師の指示のもと服薬の支援を行っている。点眼や軟膏塗布の方もあり症状の変化・異常の確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人や家族からの情報を確認し、やりたいことで余暇を楽しんで頂くよう畑づくり等の支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ホーム周辺の散歩の他、市街地へのドライブやイベントなど出かける際の支援を行い、四季の移り変わりを見ていただいている。	日々の散歩コースの川沿いは、季節感を味わうことが出来、近くの保育園にも立ち寄っている。買物やドライブに出かけ、気分転換を図っている。7、8月を「家族と過ごすお出掛け月間」とし、一時帰宅や外泊が行われている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者は、欲しいものがあるときには職員と共に併設病院の売店や近隣のお店などに出かける支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話要求にはその都度対応している他、職員も遠方にいる方へ、電話で利用者の声を届ける気持ちをもち支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	殆ど変ることのない環境で利用者は落ち着いている。 トイレや浴室は言葉や絵で明示し利用者は見て確認し使用している。また、ボランティア協力のもと作成した季節を感じられる作品を飾る等工夫している。	広々としたホール兼食堂は、大型エアコンとパネルヒーターが設置され、快適な温度が保たれている。畳の小上がり、ソファ、テーブルと思いの場所で寛ぐことが出来、ピアノも置かれている。ボランティアの方と一緒に制作した作品が飾られ、温もりのある空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにあるテーブルに着くと利用者同士が顔を合わせられるようになっている。ソファスペースもあり、利用者それぞれが寛げる場所を見つけ過ごしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個々の居室の物はベッドと座卓以外は私物となっている。家族の協力もあり本人の好む物を持参して頂きそれぞれが寛げる空間となっている。	畳の居室にベッド、テーブル、洗面台、押入れが備えられている。利用者毎に、テレビ、家族写真、位牌、人形などが持ち込まれ、利用者に応じ居心地よく過ごせるよう整えられている。パネルヒーターと加湿器で快適な環境が保たれている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内は手すりが設置され、ベンチや椅子が至る所にあり、いつでも休めるようになっている。トイレや浴室は言葉や絵で明示されており、自ら判断できるように工夫している。		